

【引当金】

ひきあてきん

「引当金」は、翌期以降に費用や損失が発生する可能性が高い場合に、あらかじめその額を見積もって当期の費用に計上する勘定科目です。主に、会計上の期間損益（一定の会計期間内で獲得した損益）の計算を適正に行なうことを目的に行ないます。

貸借対照表の負債の部や、資産の部にマイナスイタで計上します。繰入時（引当金を増やす）は費用となり、戻入時（引当金を減らす）は収益となります。

会計上の取扱い

引当金は、会計上と税務上で扱いが異なります。会計上は、次の4つを満たした場合に引当金を計上します。

- ① 特定の費用または損失であること
- ② 発生が当期以前の事象に起因すること
- ③ 発生の可能性が高いこと
- ④ 金額を合理的に見積もることができること

取引先の倒産などで売掛金等が回収できない場合に備えて計上する「貸倒引当金」や退職金の支給に備えて計上する「退職給付引当金」のほか、「賞与引当金」「修繕引当金」「製品保証引当金」などがあります。

税務上の取扱い

税務上、損金算入が認められる引当金は貸倒引当金だけです。それ以外の引当金がある場合は、税務調整（会計上の利益と税務上の課税所得のずれを修正）が必要です。

貸倒引当金の計上が認められるのは、資本金の額が1億円以下の中小法人のみです。貸倒引当金の対象となる金銭債権は、回収可能性に応じて「一括評価金銭債権」と「個別評価金銭債権」に分類され、損金として計上できる繰入限度額の計算方法が異なります。弁済期限の延長などの弁済猶予等があったものは、個別評価金銭債権となります。

担当者なら知っておきたい

第5回

「経理用語」

(株)CFO代表
税理士・
米国公認会計士
高橋 和徳



【買掛金】

かいかけきん

「買掛金」とは、商品やサービスを掛け取引（現金取引ではなく、あとで精算する約束で行なう取引）で購入したときに使用する勘定科目です。貸借対照表の「流動負債」に計上します。

発生と解消を確認して、月末残高が正しいかどうか確認することが重要です。買掛金に似た勘定科目に「未払金」と「未払費用」があり、負債の内容に応じて使い分けます。

未払金とは

会計は基本的に発生主義で計上するので、仕入れなどがあったときに支払いがまだであるときは、買掛金を相手科目に計上します。たとえば、月末締め翌月払いなどの条件で継続的に取引している「商品の仕入れは完了したが、支払いがまだ」といったときに、買掛金が発生します。

売上原価や製造原価となる費用の未払い代金と考えるとわかりやすいでしょう。

経理上の注意点

買掛金は、毎月計上して支払時に取り崩します。多くの場合、取引先ごとに任意で補助科目（勘定科目の内訳となる科目）などをつくって管理します。取引先ごとに、毎月、

未払費用とは

「未払金」は、買掛金と同じ流動負債です。買掛金と異なるのは、本来の継続的な営業取引に直接関係しない事務用品や備品、役務などを1年以内以後払いする条件で購入した際に計上する科目である点です。

未払金も、月末ごとに残高を確認します。

「未払費用」は、継続的に提供を受けているサービスについて、まだ債務が確定していない未払い分を計上する勘定科目です。たとえば給料や社会保険料、支払利息などが該当します。